

堂谷津の里から

堂谷津の里は、収穫の秋を迎えました。田んぼでは、もち米（ヒメノモチ）の稲刈りを行い、市から借用したハーベスターにより脱穀し、42 kgの粃を収穫しました。作付面積の7割を占めるうるち米（いのちの粃）については、地元農家の方にコンバインによる刈り取りを委託し、雨の影響でスケジュールが厳しい中、ご協力を頂き、玄米 360 kgを無事収穫することができました。10月10日（土）に予定している黒米の稲刈りで、お米の収穫は終わります。是非、堂谷津のお米をご賞味ください。

【田んぼでは】



多くの会員の皆さんの参加により、およそ1時間で、刈り取り、おだ掛けを行うことができました。



おだ掛けで2週間天日乾燥し、脱穀しました。



およそ1時間半でコンバインによる刈り取りが終わり、地元のライスセンターで乾燥、粃摺りを行って頂きました。

【山林では】



専門家（アーボリスト）に依頼し、ツリークライミングによる危険木伐採作業を行いました。併せて見学会も行い、3団体から参加がありました。

【千葉県環境研究センター出前講座のご案内】

日時：令和2年10月13日（火）10時～12時

テーマ：堂谷津付近の地層と地下水

講師：地質環境研究室主席研究員 風岡修氏

集合場所：堂谷津の里活動広場

*会員を対象にした講座です。

**堂谷津の3か所で事前調査を実施

- ・鉄管（コアサンプラー）を錘の落下で打ち込む（右上写真）
- ・柱状のコアサンプルの採取（右下写真）
- ・地層の状態の把握、水位測定等



【キャノンの生物多様性に向けた
ふるさとプロジェクトの取り組み】



ESD-j 企画にバランス 21 と谷当工房は特別協力をしました。田んぼの生きものたちは、子どもたちを十分楽しませてくれました。

【堂谷津の里・百景④】



おだ掛けが並ぶ秋の風景に心も和みます。

報告

ナラ枯れについて

千葉県では 2018 年に初めて鴨川で被害が発見され、3 年で千葉県全体に蔓延し、ついに堂谷津の里までやってきました。

ナラ枯れは、カシノナガキクイムシ（甲虫、以下カシナガと省略）が媒介するナラ菌によってナラ、シイ・カシ類（ブナ科）の樹木に起こる伝染病で、感染すると高い確率で枯死します。（松枯れ病に似ています。）

カシナガはブナ科の木を穿孔して多くの木くず（フラスと言う）を外に出すので発見しやすいです。（写真参照 白いものがフラス、楊枝は穿孔された穴に刺したもの）

堂谷津では、調査したところ散策路沿いのおおむね胸高直径 30 cm 以上のコナラの大木 18 本（コナラ全体の 2 割程度）がカシナガに襲われ大量のフラスが見られますが、今のところ枯れてはいません。どうも昨年の台風で枝折れなどの被害にあったコナラがほとんどで、大径木や衰弱木に被害が多いといわれていることに符合しそうです。

今後、この 18 本が枯れていくのか、また被害が拡大するのか、どうなるか心配です。

対策はいろいろありますが、完全な防除は困難で労力や費用も負担が大きい。コナラ広場のシンボルツリーのコナラだけは何とか守りたいと考えています。（Y.N.）

（詳しいデータ等は、「ホームページ⇒会員のページ」をご覧ください。）



<情報コーナー>

10月10日（土）9時半～黒米稲刈りを行います。多くの会員の皆さんの参加をお願いします。なお、11月3日の収穫祭については、ホームページ・会員のページでお知らせします。

NPO 法人バランス 21

E-mail :yatosatoyama@gmail.com

URL :https://balance21.jimdo.com/

連絡先：千葉市若葉区谷当町 70

TEL & FAX:043-239-0645（現地）